

## 【第2回 健全育成分科会について】

文科省の調査では、諸外国に比べ、わが国の子どもたちは、学力がトップレベルであるにもかかわらず、自己に対する肯定的な評価（自己肯定感）が低い状況にあるため、自分の価値を認識して、相手の価値を尊重するとともに、リラックスしながら他者と協働して自分の可能性に積極的に挑戦できる対応策が必要である、と調査結果があります。

自己肯定感とは、自分に自信を持つことです。そのためには、やり甲斐を持ち、自分のモチベーションを上げ、困難があってもやり抜く勇気が必要です。子どもたちに、自信を持たせる・やり甲斐を持たせるには、特に保護者や周囲からの励ましが必要です。

具体的には、ただ褒めるだけでなく、改良点を指摘してあげることや、また、やり甲斐を見つけるためには、常に探求のタネを子どもに投げ続けることである、とありました。子どもたちの自己肯定感を向上させるためには、保護者の自己肯定感も上げていかないといけない、と認識しました。